

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

心不全入院患者の在院日数長期化に影響を与える要因の調査

2. 研究の対象患者

2025年4月から2026年3月までの1年間に当院へ入院した心不全患者345人を対象とする。期間内の同一患者の複数回の入院に対しては入院ごとに集計する。

<除外基準>

- ・入院中に死亡した方
- ・転院目的で入院した方
- ・必要データの欠損がある方

3. 研究の対象期間

2025年4月1日～2026年3月31日

4. 研究の概要

日本における死因別死亡総数として、心疾患による死亡は悪性新生物に次いで第2位であり、その中でも心不全は死亡数が最も多い疾患である。日本は総人口に占める65歳以上の者の割合が年々上昇しており、高齢化の進行に伴い心不全患者数の増加が予想されている。

心不全は寛解と増悪を繰り返しながら進行する慢性疾患であり、特に高齢者では入退院を繰り返すことが多く、医療費の増大や患者のQOLの低下につながる。さらに、高齢心不全患者は複数の既往歴や合併症を有することが多く、ADL低下やフレイル、老々介護などの社会的背景も影響し、退院後の生活支援が必要となるケースが多い。近年のレジストリー研究では、心不全患者の多くが全身性の合併症を有していることが報告されており、また心不全による入院歴を有する患者が35%を占め、入院回数が多くなるほど予後は不良となることも示されている。

先行研究では、青木らは心不全患者の在院日数長期化の要因として認知症、肺炎などの併存症、ADL低下、嚥下障害、転院などを挙げている。また松浦らは退院遅延症候群では高齢、認知症有病率の高さ、BNP値、強心剤利用率などが関連することを報告している。しかし、これらは主に患者の身体的要因に焦点を当てたものであり、家族の支援状況、看護師による退院調整の実施状況、多職種連携、社会資源の活用状況との関連は十分に明らかにされていない。

このような背景から、心不全患者に対しては入院早期から退院後の生活を見据えた退院調整を行い、多職種で支援していくことが重要である。そのため、看護師が在院日数長期化のリスク因子を把握することで、退院支援や社会的支援につなげ、在院日数短縮と再入院予防に役立つと考えられる。

5. 研究実施予定期間

2026年7月22日～2026年12月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

1) 在院日数

2) 要因

①患者要因：年齢、性別、心不全での入院回数、初回測定時のBMI、既往歴(糖尿病、高血圧、慢性腎臓病、心房細動、認知症)、合併症(肺炎、腎機能低下、脳梗塞、せん妄)、入院時のADL状況、入院時のLVEF、入院時のBNP値、入院時のNYHA分類、心不全の原因(虚血性心疾患、弁膜症、高血圧、心筋症、貧血、頻脈)、強心剤の使用

②家族要因：同居家族の有無、キーパーソンの有無、キーパーソンの居住地

③医療者要因：リハビリ開始時期、心不全教育の有無、多職種カンファレンスの実施、医療ソーシャルワーカー介入の有無

④社会要因：入院前の生活場所、介護度、在宅サービスの利用、入院中の介護調査の有無、退院先

7. 研究により得られた結果等の研究対象者への説明方針

本研究は既存の日常診療情報を用いる後向き観察研究であることを踏まえ、研究対象者の健康状態等の評価に関する知見が得られた場合でも、研究対象者(又は代諾者)個々に結果説明することはありません。

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・ 研究責任者： 7階西病棟 平野 友梨

・ 臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)